



門扉に「ナチュラル」を設置。古い門柱とも違和感なく調和しながら、美しいパステルグリーンが新鮮な風を吹き込み、エクステリアをおしゃれに生まれ変わらせている。



羽柴産業株式会社  
代表取締役 枝村幸一様

### やさしいパステルカラーで、古い建物や門まわりをおしゃれに変身

宇都宮市の市街地に建つ枝村幸一さん宅は、アイボリーの外壁に淡いグリーン屋根が印象的なヨーロッパ調のお住まいです。門は以前はオープンでしたが、このほど門扉に三協アルミの「ナチュラル」を設置したところ、エクステリアの雰囲気ガラッと変わったと話されます。「これからはカラーの時代。とくにいま人気の南欧風の住宅は、明るくライトなイメージですから、エクステリアの商品も従来のように重厚な色ものばかりでなく、ライト感覚でカラーバリエーションの豊かなものが求められていると思います。わが家の場合も、このナチュラルのパステルカラーが家の色調とうまく調和して、エクステリアと建物に一体感が出ましたね。それにナチュラルのカラーは、ちょっとかすれたような自然の色あいですから、建物や門が古くても違和感なく溶け込んでくれるんです。ですから新築だけでなく、こうしたリフォームにも幅広く使えますね」

枝村さんは創業23年のエクステリア設計・施工会社を経営。いま流行りのオープン外構をもう10年以上も前から提案するなど先進性＆オリジナリティーのあるプランニング力が評判で、以前は、取引先はハウスメーカーが主体でしたが、年々個人の施主様の割合が増えてきています。建材の研究も熱心で、オーストラリアからの直輸入で商標登録も取った「スタンプストーン」は、コンクリートに着色と型押しで模様をつける手法。味気ないコンクリートの床を多彩な表情に演出できて、しかも天然石などよりはるかにローコストなのが魅力です。設計ポリシーは「将来を見据えたプラン」。奇をてらったものではなく、丈夫な素材を適材適所に使って、長い期間楽しめるエクステリアづくりを肝に銘じておられるそうです。

## お知らせ 2004年 エクステリア商品展示会開催日程

2004年ご提案の営業方針づくりをお手伝いする商品展示会……本年は右記会場にてエクステリア・住宅・ビル部門の同時開催を予定いたしました。

\*静岡会場はエクステリア単独となります。詳しくは別途ご招待案内状をご覧ください。お客様ご同伴など、魅力の提案営業にもご活用いただけます。

地区	開催日	会場
大阪	4月6日(火)	インテックス大阪 4号館
静岡	4月10日(土)	ツインメッセ静岡 北館
名古屋	4月16日(金)	吹き上げホール
東京	4月27日(火)	東京ビッグサイト 西2ホール

## かっこいい庭を考える②

遊びの庭もかっこよく

高崎 康隆  
高崎設計室有限会社 代表取締役・石組師

### シャープな線

「かっこいい」という形容詞がふさわしい庭はどんな庭でしょうか。「かっこいい」を英語で置き換えるとき、「シャープ」という言葉が思い浮かびます。シャープさを表現するデザイン要素は、第一に線だと思います。私は日本的な線をかっこいいと感じます。日本建築の屋根の反り、日本刀の反り、雪舟の引いた墨の線、宮本

武蔵による水墨画中の線。それらは、アラブ建築のドーム屋根の曲線、インドや中国・韓国のそれらとは、まさに一線を画す確かな日本の線です。直線ではないのですが、真っ直ぐな線、方向性を持った勢いのある線、緊張感のある線、これらのシャープな線はどのようにして生み出されてきたのでしょうか。



\*1 毛越寺庭園 もうつじ ていえん  
平安時代の浄土式庭園 岩手県平泉町

毛越寺の「大泉が池」は東西170m、南北100mほどの規模を持ち、背後に控える塔山をはじめとする借景の山々や境内のスギの古木群を水面に映し込み、この世の浄土を現出せしめている。広大な池景観を引き締めているのが、水中から斜めに突き出た立石。高さ約2.5mの自然石で、見る方向により僅かな反りを示し、視界に入る全てのもののエネルギーを受け止めて、空へと上昇させている。この石が持つシャープな線の力は、作作者の空間感覚が実現したもので、庭園史上特筆に値する。この空間感覚を現代の都市の中によみがえらせれば、混沌とした景色も変わってくるはずだ。

### 遊びの庭もかっこよく

平泉の毛越寺庭園(\*1)は池中の立石が圧倒的な存在感を持ち、広大な空間をその1石で引き締めるほどのシャープな力を示しています。この大池は浄土を表現した祈りの空間ですが、一方で楽隊を載せた舟を浮かべた遊興の場でもありました。また、大池に注ぐ細い流れは曲水の宴のためのものであると考えられています。かっこのよさは鑑賞の庭だけではなく、使う庭・遊びの庭でも大切にされたと言えます。むしろ楽しみのための大らかな自由さが、ストレートで突き抜けた

表現を生み出したのではないのでしょうか。何かにとらわれ、どこかに無理がある庭は、真にかっこいいとはいえないかもしれません。近年の英国庭園における「ナチュラルガーデニング」の提唱も、がんばりすぎのガーデニングに対する反省から生まれたものです。人間にも植物にも、無理があれば継続性が保たれません。変更が繰り返されるといことはかっこの悪いものです。特に庭園の場合はそう言えるのではないのでしょうか。

高崎 康隆氏  
東京農工大学農学部林学科自然保護研究室卒業  
京都大学農学部林学科造園学教室研修員、総合庭園研究室勤務を経て国際協力事業団派遣専門家として、北イェメン都市省へ  
西洋環境開発環境形成部課長在職後、高崎設計室有限会社を設立  
英国王立園芸協会、日本造園学会会員  
千葉大学、京都造形芸術大学非常勤講師

著書 主婦と生活社「自分でつくるわが家の洋風ガーデン」  
「自分でつくる楽しい庭のデザイン」